

# ツバケイラバー

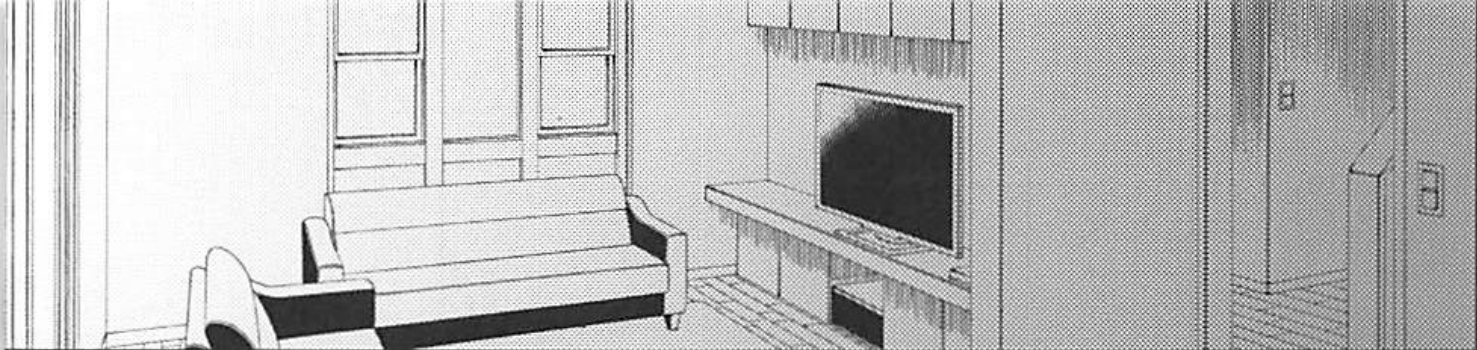




ツバクラバー



ツバクリニブズ



「はああ…  
どうしても  
やってもうりたい  
ことがあるからって  
来てみれば…」

「先輩まで  
呼び出しやがって…」

「私は雪音がどうしても  
相談したいことがあるからと  
彼から連絡を受けて来たんだが…」



「先輩だまくらかしてまで  
ここにここに呼んだ理由が…  
これを着るってか!?  
な、ナメてんのかッ!」

「こんなくだらねえ理由で  
呼び出しやがって  
これでもあたしらは  
結構忙しい身分なんだぞッ」





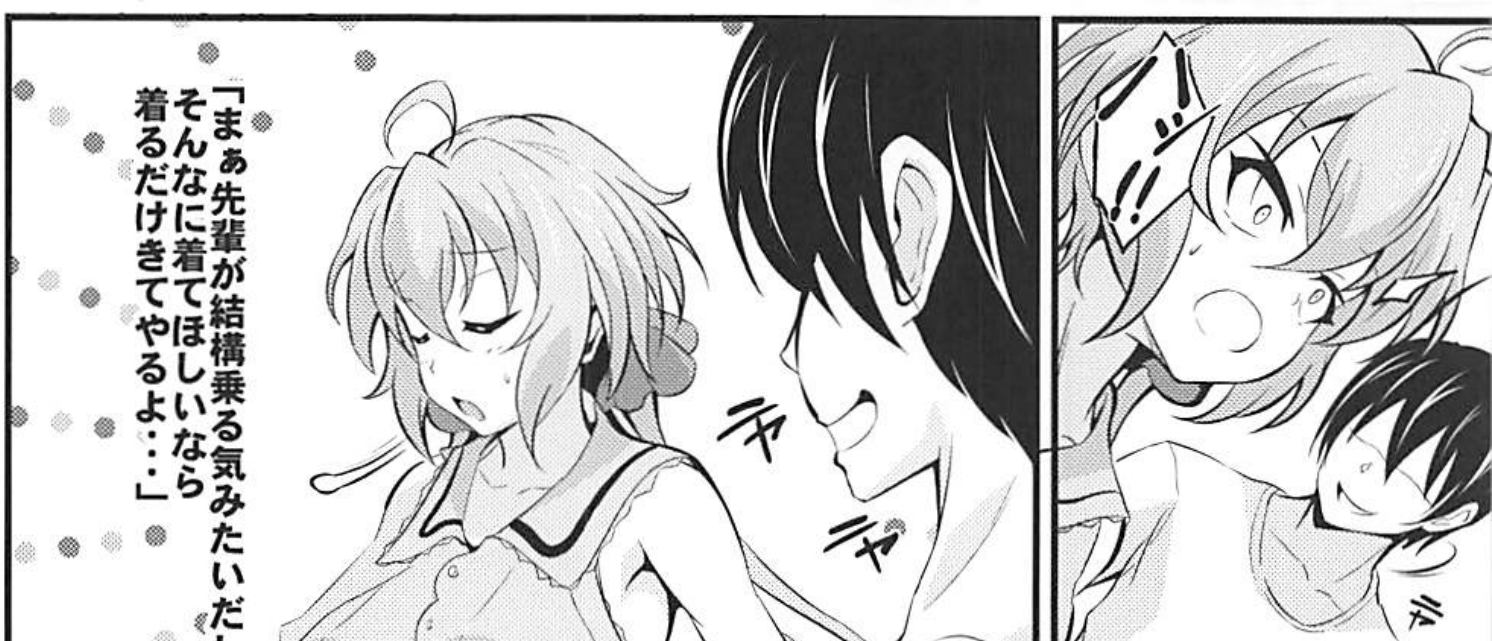
「おいおい土下座って…  
どんだけ必死  
なんだよお前は…」

「まあまあ…:  
せっかく用意して  
もらったんだ  
着てみるだけ  
でもいいんじ  
ゃないか?」



「しかし、雪音ならともかく  
わたしではこのようなかわいい  
衣装は似合わないのではないか?  
ほら…:  
私だとすこし無理があるだろう…:」

(かッ…:  
かわいい…:)



「まあ先輩が結構乗る気みたいだ、  
そんなに着てほしいなら  
着るだけきてやるよ…」

「うう…  
確かに着るって言ったけど…  
これ：ちよつと  
サイズが小さすぎねえか？」

「へっ？…  
やっぱよく似合ってるって…  
お前ツ…  
よくそんな都合のいい事が  
ペラペラでてくるなッ」

「このスケベッ！  
お前ってホントバカ♡」

ムッ

「やっぱり「うーうー」と  
させたくてあたしら  
呼んだのかよ……」

「一度でいいからバニーコスで  
エッチしてみたかったって……  
お前の頭には  
それしかねえのかよッ」

わ  
ん  
わ  
ん

わ  
ん  
わ  
ん

「そんな煩惱まみれのやつは……  
こうだッ♡」

「ジュポッ♡ジュポポッ……  
んほッ♡んほッ♡  
どうだ？おまえ……うぐッ  
これッ♡好きだったよな♡」

「節操なしチ○ポは……  
んほッ♡さっさと……んッ♡  
精液はきだしちまえッ♡」

んほッ♡  
んほッ♡

んほッ♡  
んほッ♡

「ふえっ……  
もう射精るって……  
うわッ……」

ズジュッ♡ズジュッ♡

「ったくちよっと  
はやすぎじゃねーか？  
この日のためにオナ禁してたって  
どれだけ楽しみにじてたんだよお前はッ♡」



「まあ出ちまったのは  
しよーがねえーけどッ……」  
ドンッ……！  
「急に押し倒されてなに  
そんなにビックリしてんだ？」

ムッ

「お前のきもちいいよくなってる  
顔見てたらあたしもその気にな  
なっちまったんだよ♡……  
あたしをヤル気にさせたからには  
満足するまで寝させねーからな♡」



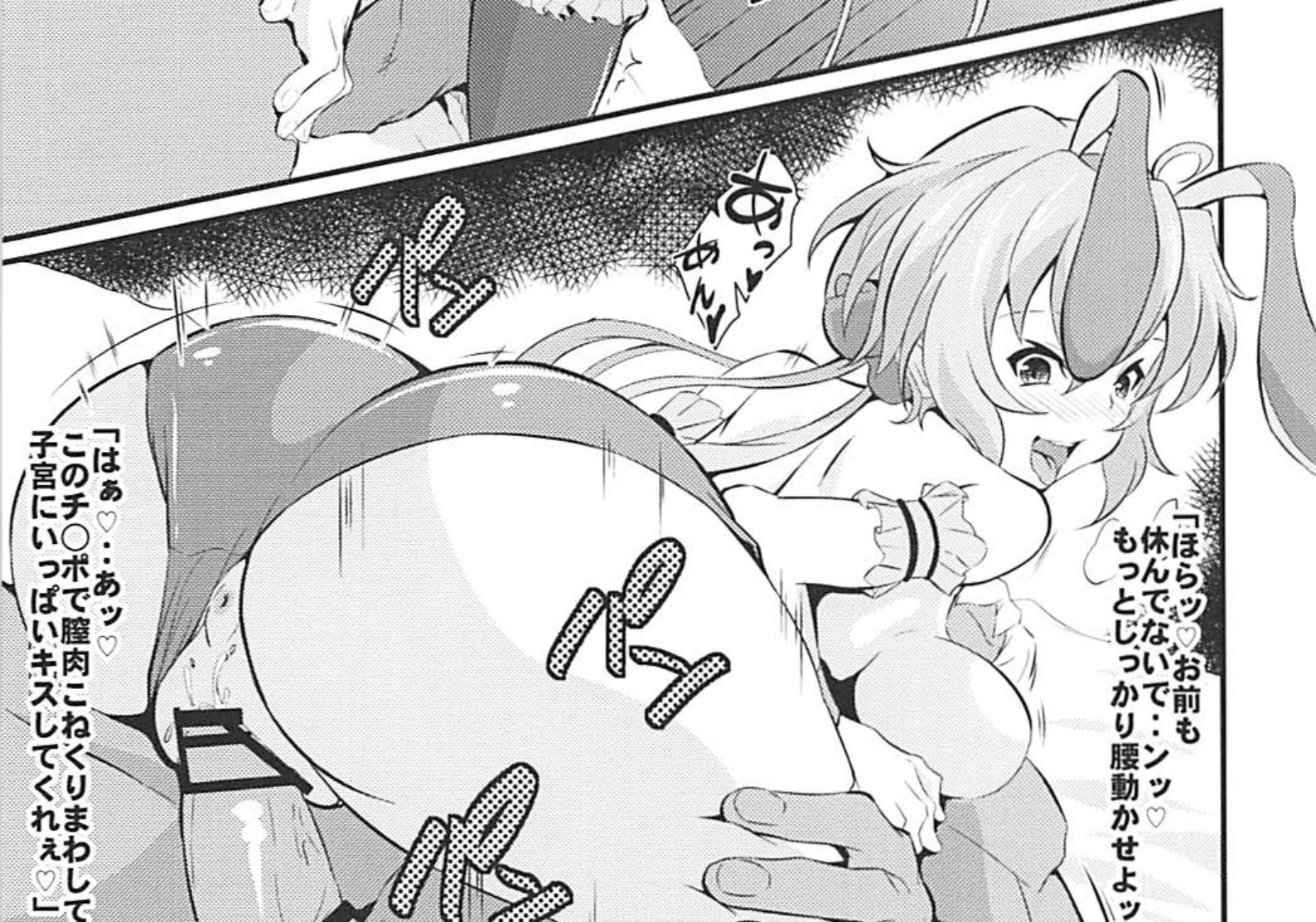






「お前のこのでっけーチンポで  
こっうして…んッ♡  
マ○コいっばいにされて  
お前にすこい  
抱かれたかったんだあ♡」

「なめてたときから…アッ♡  
ずつと入れたかったんだッ  
このオチ○ポツ♡…」



「はあ♡…あッ♡  
このチ○ポで膣肉こねくりまわして  
子宮にいっばいキスしてくれえ♡」

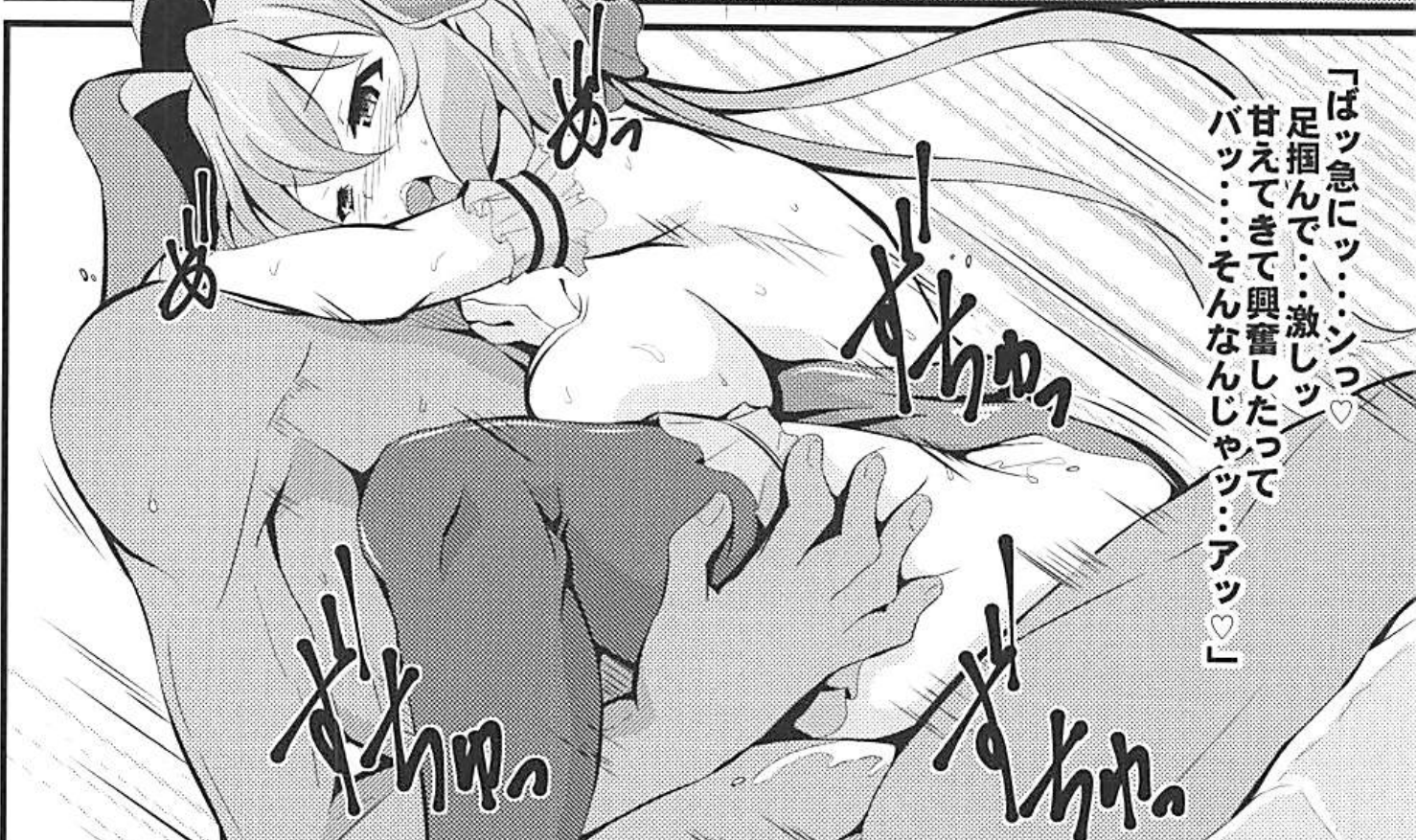
「ほらッ♡お前も  
休んでないで…んッ♡  
もつとじゅっかり腰動かさせよッ♡」

「ちゅっ♡ちゅ♡…んはあ♡  
へっ!?! エッチしながらの  
キス好きかって?」

「そうかもな♡…キスしてると  
「こう…安心するっつうか  
お前としっかりつながってるって  
意識できるんだよな♡…  
って…なに恥ずい」と語らせんだよ」

「そんな誘導尋問野郎には…  
「こうだっ♡♡♡んっ♡  
んあッ♡…ちゅ♡ちゅ♡  
♡♡♡」

「ばっ急にっ…シっ♡  
足掴んで…激しッ  
甘えてきて興奮したって  
バツ…そんなんじやッ…アッ♡」





「チ○ポビクビクしてきたあ♡  
イクのかッ? あたしももう少して  
イキそうなんだッ♡ いっしょよお♡  
いっしょにイキたいのお♡」

「だめだッ... そーッ♡  
Gスポットおッ♡ いいッ♡...♡  
あッ♡ だめだッ♡  
イクッ...  
イクウウウウウウウウウウウウウウウウ♡」



「はぁ♡ はぁ♡...  
ゴブッ♡ゴブプ♡  
やっと出し終わったのかあ♡  
こんなに大量に中出しして...  
あたしを孕ませる気かよ♡」

はぁ♡

はぁ♡

『しかし雪音のバニー姿を  
見た後では私のバニーなど見ても  
うれしくないだろ…  
特に胸周りとか…』

『その…やっぱり変じゃないか？  
コンサート衣装とか  
は着慣れているのだが  
こういうコスチュームを  
着るのは初めてなんだ』

『えっ？ちゃんと似合ってる？  
足とかすらっとして衣装映えるっ！  
そうか…君に褒められたなら  
わたしもこの衣装を着た  
甲斐性があったというものだ』

シロ♡シロ♡

『どうだっちゃんど

気持ちよくできているか？

そうか♡…しかし

君のはいつみてもたくましいな♡

さっきまで雪音の中で

あんなに暴れていたのに♡』

『へっ…わたしのパニー姿で

興奮してって…

まったく♡都合がいいな君は♡』

『雪音みたいに胸でできないが…』

ちゅ♡レロ♡レロ♡

アッ

レロ

ちゅ♡

レロ

『口で奉仕するくらいなら  
わたしにもできるぞ♡』  
ジュブ♡ジュブ♡

ジュブ♡

ジュブ♡



ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡ちゅ♡  
『んっ♡んぼ♡…♡どうだあ♡？  
私だっ♡て君のオチ♡ポを  
気持ちよくするぐらゐ造作もないぞ  
このまま手で射精させてあげる…♡』



ドサッ…  
『なっ…急になんかしたんだ？  
えっ…もう我慢できない？  
はやく挿入したいっで…』

『まったく君は堪え性がないな♡  
いいぞ♡君のそのたくましい剣で  
私を貫いてくれ♡』



『すぶっ…っ♡すぶぶぶ♡  
 『アッ♡ふあああ  
 いっ♡すっ♡  
 奥まで届いてるっ♡』

『ジュブ♡ジュブ♡  
 『だめだっ♡いきなりそんな  
 カリが引っかかってっ♡』  
 んっ♡あああッ♡』



「はあ♡..はあ♡..  
まったたく..いきなり激しくするから  
軽くイッてしまったではないか?..  
罰として私の頼みをひとつ聞いてくれないか?」

「その..キスしながら  
わたいんだ雪音のように..  
抱きしめられながら  
したいんだッ♡..だめか」

「んっ♡んあッ♡..  
嬉しい♡..んちゅ♡..  
君のオチ○ポにつかれながら..んっ♡  
こうしてキスしていると..あッ♡んっ♡  
まるで恋人同士みたいですよ♡高い高ぶるんだあ  
もっとおもっどオチ○ポで  
わたしをめちゃくちゃにしてくれえ♡」

グイッ!...♡ちゅ♡

グイッ♡

んっ♡

キス♡

スッ♡

スッ♡

んっ♡

れめ♡

れめ♡

んっ♡

『ああッ♡クルッ♡きちやうッ♡  
『きてくれ♡…  
君の特濃精子で  
わたしをみたしてえええええ』

ドピュ♡ビュッ♡

『すい♡…雪音のいう通り  
これでは君の子を孕んでしまうな♡』

『それにしてもこんな量を射精したのに  
まだガチガチなんだな♡  
わたしはまだまだできるぞ?!どうする?!♡』



チュパ♡チュパ♡  
「先輩ツ…こいつのチ○ポは  
私のなんですから  
そんな独り占めなんてするいっすよ♡」

「あたしだってこいつのこと  
満足させたいのは一緒なんすから  
ちゃんと譲ってくださいよ♡」

「んっ♡しかしだな雪音…  
あれだけ射精したのに  
こんな元気な竿を  
見せられたらついな♡…」

「あたしたち二人相手に  
散々出しまくったのにまだ  
こんなギンギンなんてな  
こうなったら私らが  
満足するまでちゃんと  
責任とってもらおうからなっ♡」

あん

チュー♡チュー♡  
「あああ♡せんぱっ  
むねっ♡あッ♡」

「あむッ♡ちゅ♡…  
雪音の胸は彼とちがって  
すこし甘い感じがするな♡」

「あッ♡…なにこいつと比較しながら  
んッ♡味見してるんすかッ」  
スブッ♡スブッ♡  
「胸吸いながらちゅ♡ぽでつかれたらッ  
アッ♡…あんんッ♡…」

スッ

スッ

スッ

ふうー♡ふうー♡  
「たしかにお前の胸は甘いというより  
すこしじよっぱい感じがするなッ♡」

「雪音に気をとられて…んッ♡  
腰が動いてないぞ…もっと強く  
力強くわたしに  
腰を叩きつけてくれえ♡」

ん

ん

ん

ん

パンッ♡パンッ♡パンッ♡  
「おッ♡おほッ♡」  
「あああ…♡あッ♡…♡」

「まさかこいつが…おッ♡  
「こんなに性欲魔神だったなんてッ♡」

「さすがに…ここまでとは…あッ♡  
もうだめだこれ以上は…んッ♡  
あたまがおかしくなるッ♡」

「先輩♡…あたしもうダメッ…  
す♡ごいのくるッ♡きちやう♡」  
「私もだ雪音♡…♡…♡  
彼とお前と3人で一緒に  
イ♡こッ♡」





「ああ♡イクッ♡す♡いのくるッ♡  
きてくれッ♡君の今日一番の性豪精子ッ♡  
わたしの子宮めがけて  
無責任中出ししてくれえッ……」

「あんッ♡あたしもッ♡イクッ♡……  
イクッ♡わたしにも孕ませ精子ッ♡  
…子宮に打ち込んでくれえッ♡」

イクッ♡イクッ♡イクッ♡

イクッ♡イクッ♡イクッ♡

イクッ♡イクッ♡イクッ♡

イクッ♡イクッ♡イクッ♡

イクッ♡イクッ♡イクッ♡

イクッ♡イクッ♡イクッ♡

「はあー♡はあー♡  
「もうだめだあ♡  
あたまたがクラクラしやがる…」

「わたしもだ♡気持ちよすぎて  
自分の体じゃないみたいにかがはいらない」

「君は…明日の予定はあるか？  
できれば三眠りしてから  
また君の寵愛を受けたいんだが…」

「アッ…するいっすよ先輩  
こいつは二応私のモノなんっすから  
おまえも…  
何鼻の下伸ばして顔いてんだよッ」

「へっ！？もちろん最初はわたしから？  
わたしが二番って…  
べっ…別に嬉しかねえ…よッ♡

このバカあ♡

彼女たちの夜は続く…

## ■あとながき■

この度は「ツバクリラバー」をお手にとっていただき  
ありがとうございます。シンフォギアのソシャゲやる  
時間をください子安ですw  
次回参加イベントは未定ですが、情報などはツイッターで  
更新していくので(未定期ですw)よろしくお願いします。  
ではまたどこかで……

子安 和



## ■奥付■

■発行日：2017. 08.13

■誌名：ツバクリラバー

■著者：子安和

■発行：image rider

■印刷：PICO様

■Email:koyakazu222@gmail.com

■twitter:@imagerider

■pixiv id:1304225

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止



# 嗚呼ラバー

for adult only 2017  
Image Rider presents